

第1回

上顎正中過剰埋伏歯：
自院で抜歯それとも病院歯科口腔外科に依頼大分大学医学部歯科口腔外科
講師 河野 辰行

■はじめに

2022年度の口腔外科シリーズでは自院でおこなうか歯科口腔外科に依頼するか、方針に迷うケースへの対応を解説していきます。第1回の上顎正中過剰埋伏歯は一般歯科医院でも遭遇する機会が多く、状態によっては局所麻酔下に自院で抜歯することが可能な症例も多くあると思います。対象が学童期の子供であることが多いため歯牙の状態だけでなく、治療への協力度も踏まえた判断が必要になります。

■抜歯の難易度

口腔外科に治療を依頼するかどうかの最も大きな判断基準は抜歯の難易度です。難易度は埋伏位置の深さ、位置、埋伏方向などの要素で決まってきます。評価には通常デンタルX線写真や咬合法写真、パノラマX線写真を用いますがCT画像があるとより詳細な評価が可能です。難易度が高い抜歯を示唆する所見は①完全埋伏歯、②鼻腔底への近接、③口蓋側と唇側にまたがる埋伏、④切歯管との接触、⑤後継永久歯との接触などです。上記所見を認める場合は骨削除量が増えたり、歯牙の分割が必要になったり、止血操作が増えたりと手術時間が長くなりやすくなります。また手術時の侵襲が大きくなりやすいため口腔外科への依頼を検討するのが良いと思います。

■患者の協力度

術式が決まったところで最終的な判断は患者の協力度によって決定します。通常過剰埋伏歯は小学校低学年の頃に発見され抜歯となることが多いです。ユニットに動かず座っていただけること、診察時の指示を理解して従えること、処置開始時の局所麻酔に耐えられること、骨ノミや回転切削器具による骨削合等の衝撃・振動に耐えられることなど必要とされる要件は多いです。また歯科医院の受診に慣れている患者であっても長時間の処置になると耐えられなくなり処置を中断せざるを得なくなりますので上記の難易度の判定をした上で一つの目安として30分以内程度で処置が完結するような症例に対して自院での抜歯を検討するのが良いと思います。

●症例1

9歳 女児

7歳児にかかりつけ歯科医院にて2本の過剰歯を指摘され病院歯科口腔外科受診。1本は口腔内に萌出を認めていたため同院にて抜歯手術を受けた。もう1本の過剰埋伏歯は逆性で鼻腔底との接触を認めたため全身麻酔下の抜歯を提案され当科受診となった。

両側上顎中切歯は正常に萌出していた。咬合法正方線投影写真（写真1）およびコーンビームCT（写真2，3）にて中切歯間深部に鼻腔底に接し頬舌側にまたがるように埋伏する過剰歯を認めた。埋伏位置、骨削合の範囲、歯牙分割の可能性より、全身麻酔下に抜歯をおこなった。手術では唇側からのアプローチで骨を削合し抜去した（写真4）。埋伏過剰歯切縁と接する鼻腔底の骨は欠損していた。

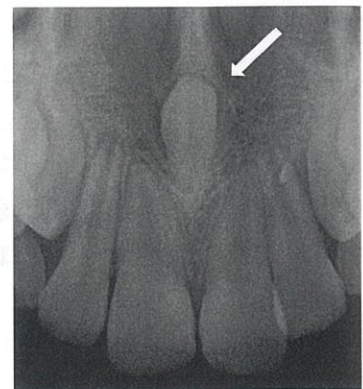


写真1 上顎中切歯間深部に埋伏過剰歯が存在

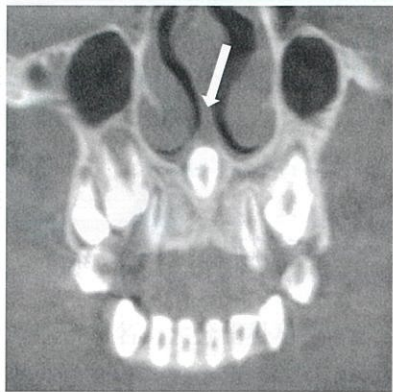


写真2 CBCT 前頭断
歯冠が鼻腔底に接している状態

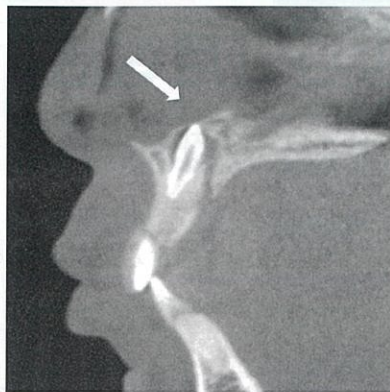


写真3 CBCT 矢状断
鼻腔底の骨は欠損し、埋伏過剰歯歯冠と
切歯管は近接

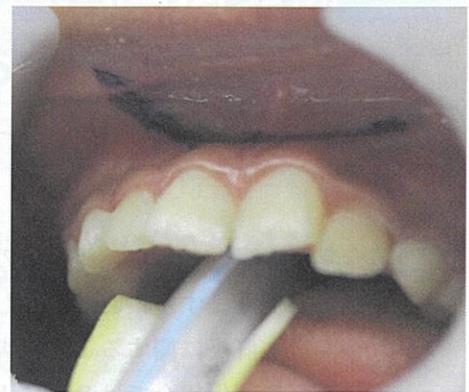


写真4
唇側アプローチで抜歯

● 症例2

6歳 女児

歯列不正を主訴にかかりつけ歯科を受診し、画像検査にて過剰埋伏歯を指摘され当科受診となった。左側上顎中切歯は低位萌出で正中離開を認めた。パノラマX線写真(写真5)およびコーンビームCT(写真6, 7)で左側上顎中切歯の近心浅部に埋伏する逆性の過剰歯を認めた。埋伏歯根尖部は骨の被覆はなかったため局所麻酔下に抜歯を行った。手術では口蓋側の歯肉を剥離したところ骨膜下に埋伏過剰歯の歯根を確認し抜去した(写真8)。

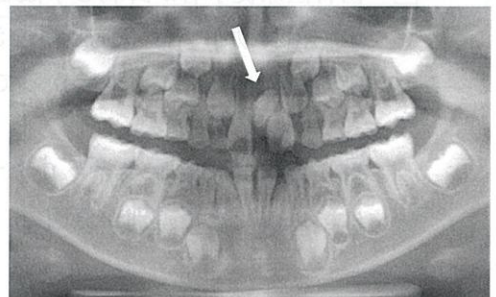


写真5 左側中切歯近心の過剰埋伏歯が
正中離開の原因となっている

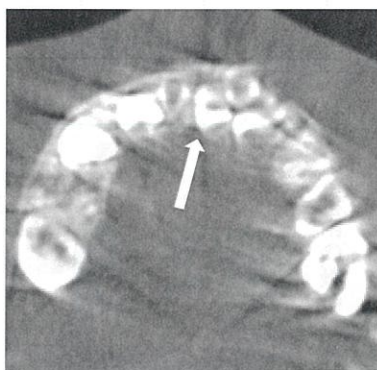


写真6 CBCT 水平断
過剰埋伏歯は口蓋側に存在



写真7 CBCT 矢状断
埋伏歯根はほとんど骨に被覆されていない

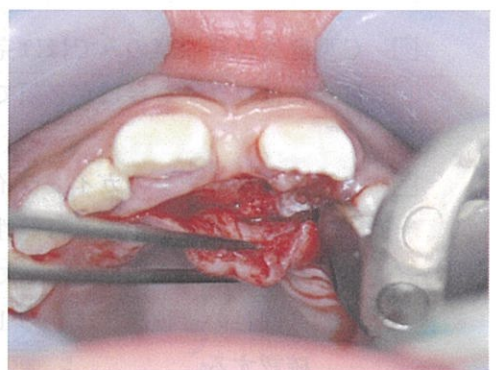


写真8 粘膜剥離したところ
埋伏歯の露出を確認

■ まとめ

上記のような基準で自院での抜歯が困難と判断した場合は、口腔外科への依頼を検討してください。口腔外科でも同様の基準で局所麻酔下での抜歯の可否について判断をし、保護者と相談の上、必要があれば全身麻酔下の抜歯を提案しています。また難易度に関わらず受診時点で全身麻酔下の手術を希望する保護者の方も多くいらっしゃいますので診察時の希望がある場合は説明を含めてそのまま口腔外科に依頼してもよいと思います。

自院で行う場合は患者の協力度や手術の難易度等から途中で中断せざるを得ない状況になる可能性があること、その場合は口腔外科への依頼をする予定であることなどを事前に保護者に説明しておくトラブルの回避につながります。